



## 新たな経済の枠組み

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

自由貿易協定は、中国を排除した、新たな自由主義国における経済の枠組みを提案するものである。

これらに対して2国間協定における経済安全保障の枠組みを求めることは、全ての国家が自己のライフラインの確保と経済安全保障を求めることに対して、日本国が、全ての産業における自己技術の確立を再度求め、それらの供与とともに、独自の経済の枠組みを形成することは可能である。

これら独自外交への転換は、日本が自己経済において独自グループの形成を可能とできることを意味する。

また新資本主義という概念において、格差と不均等性を拡大する現状の経済システムから、新社会主義的発想への転換は、競争と格差から、共生と平等という新しい概念を提示できるのである。

これらは前述した、軍事的プレゼンスと共に、日本国が独自外交にシフトすることは、世界のパワーバランスを一転させるのである。

また東洋というルールや、非白色国家における自己という、西洋陣営と異なる自己において、世界への新たな理念の提示は、異なる思想背景における参加などは、全く異なる現実を世界へ提示することができるものであり、世界が共有の利益を希求するとき、決してこれら排除されるものではないのである。

現在の世界情勢に対して、日本が有する潜在的可能性は、はるかに大きなものなのである。

これらはアングロサクソンミッションのもと、自己は否定されるかもしれないけれども、否定でなく肯定的な参加の可能性の存在するのである。

これは完全な国策の転換において、新たな現実を要求することであり、その変化は国内においても悪い影響でなく、良い影響を与えるかもしれないのである。